



はぐくみ



学校だより
令和4年6月10日 第3号
那覇市立識名小学校
校長 工藤 直也

識名小通信では、各月の行事予定や学校からのお知らせを中心にお伝えしています。また、学校ホームページでは、日々の学校の様子等をできる限りお知らせしているところです。学校だより「はぐくみ」では学校の取組や地域との連携等について紹介します。

自分で決め行動する大切さ

現在、沖縄県ではキャリア教育で目指す児童生徒像を「自分で考え、計画して、行動の出来る児童生徒」としています。これは、沖縄県の調査で「夢やなりたい自分」に向けて、具体的な行動に移していくことに大きな課題があることが明らかになったことも踏まえたものです。

学校での授業においても、児童が主体的に学ぶ授業を目指しています。それと連動して自律的な家庭学習へ繋げることが必要だと考えています。

これらのことを踏まえて、家庭学習強化月間では、自分で考え、計画して、学習することのできる児童の育成を目指した取組をしているところです。11月にも第2回目の取組を計画しています。ご家庭のご理解ご協力をお願いします。

手作りちりとりの寄贈

那覇地区社会を明るくする運動の一環で、那覇保護司会より一斗缶の空き缶を活用した手作りちりとりが8個寄贈されました。大切に使用させていただきます。資源をむだにしない。SDGsの取組ですね。



識名小校長室前にて

心の中に平和の砦を



図書館前の掲示



オンライン平和学習(5年)

6月は平和月間の取組で、図書室前のパネル展示、各学級における平和学習等を行っています。読み聞かせでは繁多川図書館との連携を図ったり、5年生の平和学習では繁多川公民館と連携してオンライン学習を行ったりするなど、地域の力を借りて取組を進めています。

朝会では、平和について次のような話をしました。

平和というのは、戦争や紛争がないこと、身の周りに心配やもめごとがないということです。争いやもめごとが起きるのは、相手を悪く思う気持ちや意地悪な気持ちがあるからです。そして、そこからけんかが始まり、結局それが戦争にまでつながることになるので、けんかは「小さな戦争」と言えます。

「戦争は人の心の中で生まれるものだから、人の心の中に平和の砦を築かなければならない」(ユネスコ憲章全文より)つまり、みんなの心の中に人を悪く思う気持ちがなく、平和にしたい気持ちでいっぱいならば、あらそいごとはおきません。ひとりひとりの心の中がどうかということが大切なんです。(6月3日全校朝会より)

学校・家庭・地域が連携して平和を愛する、争いごとを望まない識名っ子を育てていきましょう。

「花龍」復活

『花龍』は、正門に入って左手にある手こぎポンプを押すと、龍の口から水が出るしかけになっているものです。50周年記念事業(平成25年)のシンボルとして製作されました。一部故障して使えなくなっていたため修理して復活しました。



手押しポンプ(左の写真)と花龍の全体像(右の写真)



水の豊かな地域で、水の豊かさ大切さに感謝し、友達と力を合わせて水をすくって協力の心を育ててほしいとの願いがこめられて作られています。ぜひ試してみてください。



水を吹く花龍

教育の不易と流行

先日、那覇市PTA連合会の総会に参加しました。総会の中のあいさつで、教育について次のような言葉を取り上げていました。

「教育の道は、家庭の教えで芽を出し、学校の教えで花が咲き、世間の教えで、実が成る。」

これは、明治時代に埼玉県幡羅(はたら)高等小学校が保護者に配布した「家庭心得」の前文の一節だそうです。子どもたちを育てていくには、家庭・学校・地域の連携が大事であることを伝えたもので、120年以上たった今に通じるものであることに感心します。これからも学校・家庭・地域が同じ方向を向いて子どもたちを育ていけるよう取り組んで参ります。